

世界初の社会価値をここから誕生させるために

成長戦略本部は研究成果の活用やスタートアップ支援などを通じて、
新たな価値創出をめざしています。
本学と社会とのコミュニケーションを深めながら、
寄付などの資金獲得活動を強化したいと考えています。

京都大学基金へのご寄付について

京都大学基金は、本学の教育研究・社会貢献のために活用する
独自財源の充実を目的として 2007 年に設立されました。
以来、基金室を発足して寄付募集活動を行っています。
京都大学全体のために活用する基金のほか、
特定のプロジェクトを支援するためのプロジェクト支援基金などがあります。



京都大学基金
ウェブサイト

ご寄付の方法

▶ ウェブサイトからのご寄付



寄付申込フォーム

▶ 振込用紙によるご寄付

専用の振込用紙のお取り寄せは
京都大学ウェブサイト(右記QRコード)
または電話にてお申し込みください。

京都大学基金事務局
TEL : 075-753-2210



お問い合わせフォーム

Institutional Advancement and Communications

IAC Newsletter

Vol.02
Mar. 2025



Contents

| 巻頭特集 |

成長戦略本部で活躍中 ファンドレイザーとは？

活動紹介／お知らせ／京都大学基金へのご寄付について

IAC Newsletter Vol.02 2025 年 3 月発行

発行・編集 京都大学成長戦略本部
〒 606-8501 京都市左京区吉田本町
TEL : 075-753-5555

京都大学 成長戦略本部

成長戦略本部で活躍中 ファンドレイザーとは？

京都大学成長戦略本部の基金室では、資金調達の専門人材「ファンドレイザー（FR）」が活躍しています。

国内の多くの大学も同様にFRの採用を進め、寄付集めに力を入れ始めました。

FRとはどんな仕事なのか、そしてなぜ大学がFRを必要としているのでしょうか。

成長戦略本部の最前線に立つ、寄付募集の研究者とFRたちに話を聞きました。



寄付者をお招きする「感謝の集い」の開催なども
ファンドレイザーが手がける

寄付募集研究者に聞く

大学支える“第三の研究資金” 高まるファンドレイザーへの期待

大学が自律的な経営への転換期を迎える中、注目を集めるファンドレイジング。

寄付募集の意義と可能性について、成長戦略本部の専門家に解説してもらいました。

ファンドレイジングとは、「資金（ファンド）」「レイジ（集める）」という言葉のとおり、「非営利団体が、活動のための資金を個人、法人などから集める行為の総称」です。広義では、寄付だけでなく、会費や助成金、事業収入、融資も含めたすべての財源が対象です。NPO法人のFRは助成金の申請を行う場合もありますが、大

学ではリサーチ・アドミニストレーター（URA）が、科学研究費助成事業（科研費）などの申請のサポートをしており、大学FRは寄付募集が主たる仕事になります。京都大学の特徴は、寄付を検討している企業との対話により学内研究者とのマッチングを行い、共同研究など寄付以外の形の連携にも取り組んでいることです。

ファンドレイザーは“伝道師”

寄付募集とは、ただ同窓生などの方々にお願いして財源を増やせばいいというものではありません。組織の課題を把握し、その解決に向けた資金の活用方法と社会的効果を理解しているからこそ、寄付を呼びかけることができる。私が基金室長を務めていた京都大学 iPS 細胞研究所（CiRA）では、「iPS細胞を実用化して患者さんに届ける」という明確な目標がありました。その達成には、研究から実用化までの各段階で必要な資金を適切に確保することが重要です。資金の必要性に加えて、それによって達成されるであろうことの意義を丁寧に説明することで、多くの寄付者が賛同くださったのだと思います。FRはその団体が解決しようとしている問題に対する理解が深くなければ務まりません。

FRには、寄付者から託された資金が社会にとって効果的に活用されているか、代理人として見届ける役割もあります。組織の利益を追求するだけでなく、寄付者の意思を尊重しながら、教育や研究の発展に資する専門職としての重要な社会的責務を果たします。個人や企業とお互いのビジョンを共有し、信頼関係を築き、喜んで寄付してくれる人や組織を探す。寄付で生まれる価値を伝える“伝道師”に近い仕事だと思います。

民間資金が拓く研究の未来

なぜ今FRに注目が集まっているのでしょうか。現在、公的な研究費が劇的に増大することは見込みにくい社会情勢になっています。日本に限らず財政的余裕のある国が多くはない中で、公共的な活動を支える財源として、民間資金に対する期待が非常に高まっています。こうした文脈の中で、世界共通のトレンドとして、寄付やファンドレイジングに関する研究も増加しています。

京都大学の2023年度の寄付金収入は132億円で、附属病院収入も含めた総事業費1,881億円のうち7%に当たります。寄付文化が根付くアメリカの有名大学の中には、年間1,000億円以上の寄付金を集める大学もあり、大学の研究予算のかなりの割合を民間からの寄付や財団からの支援、いわゆるフィランソロピーによる資金が占めています。日本でも今後、この流れが加速し、国からの運営費交付金、競争的資金に加えた“第三の研究資金”になっていく可能性があります。研究資金が多様になることは、研究の多様性確保につながります。従来の資金配分方法では見落とされていたようなおもしろい研究にチャンスが与えられ、それが花開く可能性も出てくるからです。

日本の大学は、国際卓越研究大学制度の導入が始まるなど、自律的な経営への転換期を迎えています。民間からの資金調達の拡大は、大学の社会的責任と可能性を一層高めることになります。特に、京都大学のように多くの寄付を受けている大学では、社会全体の発展に貢献する明確なビジョンと行動が求められるようになるでしょう。社会からの期待に応えることで、京都大学はさらなる発展を遂げ、より大きな社会的価値を生み出していけると考えています。

渡邊文隆さん
WATANABE Fumitaka
成長戦略本部非常勤研究員、
信州大学社会基盤研究所特任講師

2013年に京都大学iPS細胞研究所へ着任し、2019年4月から基金室長。2020年から2023年まで（公財）京都大学iPS細胞研究財団の社会連携室長。2023年に寄付募集に関する研究で博士号（経営科学）を取得。マーケティング、ファンドレイジングが専門。



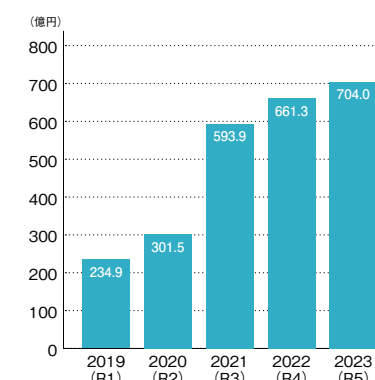
京都大学基金について

京都大学基金は、「自由の学風」のもとに優秀な人材が集い、独創的な研究を進めるための教育・研究環境の整備を目的として、皆さまからのご支援をお願いしてきました。

2007年3月に設立され、これまでに20万件を超えるご支援をいただいております。寄付受入総額は2024年3月末時点で704億円に上ります。大学全体への寄付金は、学生や留学生への奨学金のほかに、研究支援ファンドや、起業家・ベンチャー育成プログラムなどに活用されてきました。

2024年4月に成長戦略本部が設置され、寄付募集活動は社会との関係を深める「ソーシャルリレーションズ領域」で進められています。企業への提案、クラウドファンディング、遺贈寄付など、さまざまな手法を展開し、京都大学の支援者・ファンを広げています。

過去5年の寄付受入累計額の推移



学生、研究者の活動を資金面から支えるために

東京と京都、2つの拠点で8人のファンドレイザー（FR）が活動する成長戦略本部。

今回は法人、個人それぞれの寄付募集を担当する2人のFRに、仕事の実際とやりがいなどについて語ってもらいました。

東京基金室 ファンドレイザー

藤田健太さん FUJITA Kenta

Q FRになったきっかけを教えてください

A 現在、FRになって2年目です。以前は教育系のベンチャー企業に勤めており、子ども向けの教材開発に携わっていました。大学は子どもたちが将来的にめざす場所の一つであるにもかかわらず、資金の問題で硬直化しているように感じていました。工学博士の学位を取得するまで長く大学にお世話になったこともあり、自由な使い方ができる資金を増やして柔軟にチャレンジできる大学になるよう、資金面で支えられる仕事がしたいと思いました。

Q 現在の仕事内容を教えてください

A 東京を拠点に企業を訪問して最近の大学の活動や話題をお知らせし、支援をお願いする法人担当をしています。法人とはいえ約8割は卒業生を訪ねています。企業から大学への支援には、寄附講座設置や共同研究の組成、給付型奨学金の創設による学生支援などさまざまな形があります。現役の大学生との交流機会をつくることなども含めて、学内のいくつもの部署や子会社等と連携しながら、企業ごとに支援のプログラムをつくって提案しています。

藤田さんのある日の一日

- 8:30 東京駅丸の内北口すぐの新丸ビル10階にある東京オフィスへ出勤
- 9:00 京都と東京をつなぐ週1回の定例ミーティング。進捗を共有
- 11:00 卒業生のいる企業へ訪問。学生支援プログラムについて提案
- 13:00 すでに訪問した企業に対し、電話で再度面談を依頼
- 15:00 企業訪問。注力する研究領域や、大学との連携ニーズを聞く
- 16:30 当日の訪問について報告資料を作成
- 17:15 退勤

Q 金融出身者が多い基金室の中では異色の経歴です

A 工学の化学系出身なので、基金室のメンバーが企業側から研究に関する課題を相談された場合、その内容を読み解くなどのサポートをしています。また、学内の研究者のニーズを聞き取って、提案内容に反映させることもあります。いずれにしても、法人担当の活動は専門的な知識を理解し、伝える力が必要な場面も多く、FRの仕事内容は多岐にわたると感じています。

Q 今後の目標を教えてください

A 寄付や共同研究など、さまざまな方法で支援してくださる法人の方がいて、受け取る側には学生や研究者がいる。私たちは両方に関わる仕事なので、双方の思いを汲んで形にできるかが重要です。単に「お金を集めました」とならないように活動しようと、毎日意識しています。卒業生の方にお会いすることが多い中で、言葉に出さずとも、皆さん本当に京都大学のことが好きで、誇りに思ってくださっている。研究成果を世に出していくプロセスの一部に携わりながら、卒業生の方がより愛着を持てただけの大学にしていけることが大きな目標です。



京都基金室 主任ファンドレイザー

村上陽子さん MURAKAMI Yoko

Q どのような業務を担当していますか？

A 個人寄付者の担当と、遺贈寄付相談センターの担当をしています。寄付をしていただいた方や関心をお持ちいただけそうな方の自宅や職場などに訪問し、寄付の経緯や思いを聞いたり、京都大学の研究や学生、基金の現状を説明して支援のお願いをしたりしています。

Q FRになったきっかけを教えてください

A 基金室に入ったのは7年前。それまで20年近く銀行員として勤めていました。個人営業担当として、預金、投資信託や保険、不動産などの運用や相続の相談など、顧客の将来の生活を豊かにするためのお手伝いをしていました。仕事人生も折り返しに差しかかり、営利を考えるのではなく社会に富を還元できるような仕事をしてみたいと思ったんです。銀行員時代にお客さまから寄付についての相談を受けることもあり、寄付募集の仕事は自分の思いにぴったりだと感じて飛び込みました。

Q 銀行とは違う難しさはありますか？

A 個人へのリターンがあるわけではない、教育や研究という目に見えにくいものへの支援をお願いする難しさがあります。寄付者にとっては寄付金控除など税制上の優遇はもちろんありますが、大学の活動に共感してもらうことが何より大切です。卒業生の皆さんを訪ねていくと、資金が潤沢にある大学だと思われていて、「京都大学が寄付集めをしているのか」と驚かれることもありますね。

Q 印象に残っている出来事がありますか？

A ある時、70代で独身の女性の方から「京都大学病院に資産を寄付したいので急いで遺言書をつくりたい」と連絡がありました。治療のために京都大学病院へ通院されているさなかだと言います。弁護士らと共に作成を支援し、遺言書を数カ月で完成。その方は「自分の思いを全部吐露できた」と、とても安心しておられた様子でした。それから約1年後に旅立たれ、遺言の内容が実現されました。その方の願いを汲み取れるよう尽くしたことで、お役に立つことができたのかなと感じています。



Q 今後の目標を教えてください

A 今は日々、学生や研究者が思う存分勉強し、研究できる環境づくりに役立てるようにと意識しながら活動しています。寄付者の皆さんからは、大学への恩返しや後輩を支えたいという気持ち、京都大学の研究に期待しているから支援したいという強い思いを感じており、そういう方が増えていって、日本に寄付文化が根付いてほしいと思っています。



遺贈寄付相談センターとは

大学にはこの数年、「遺贈」に関する問い合わせが増えています。遺贈とは、亡くなった方の遺言に則って、その遺産の一部またはすべてを無償で他者に譲ること。成長戦略本部は2024年4月、「遺贈寄付相談センター」を開設しました。専門知識のある専任スタッフが、遺贈に関する相談を一元的に受け付けています。弁護士や税理士、司法書士らの専門家や金融機関などとも連携し、相談者の「思い」を実現するお手伝いをしています。開設からの10カ月で、約50件の問い合わせがありました。株式や不動産の寄付に関する相談や、遺言書の作成方法に関する相談などが寄せられています。

遺贈寄付相談センターについてはこちらをご覧ください。

<https://www.kikin.kyoto-u.ac.jp/bequest/>



京都大学基金の詳細はこちらをご覧ください。

<https://www.kikin.kyoto-u.ac.jp/>



REPORT | 活動紹介

イノベーション領域：研究成果の活用と出口戦略の策定を担当
ソーシャルリレーションズ領域：社会との関係を深化し寄付募集活動を担当
エコシステム構築領域：大学発スタートアップの創出に向けた総合的な支援を担当

イノベーション領域

Pickup MICシンポジウムを開催しました

2025年1月25日、「第2回 Medical Innovation Center で拓く未来医療のためのデジタルイノベーション」シンポジウムを開催しました。デジタルヘルス研究に関わる京都大学研究者と企業との交流を目的に、京都大学医学研究科・附属病院で実施されるデジタルヘルス研究の現状と今後の展望について、京都大学の4人の研究者より講演を行い、現地とオンライン合わせて130人を超える方々に参加いただきました。

第1回に続き好評をいただき、現地会場は研究者と企業関係者との活発なネットワーキングの場となりました。



成宮周 MICセンター長の挨拶

イノベーション領域・エコシステム構築領域

Pickup 学内向けセミナー&交流会を開催しました

2024年12月12日、学内研究者を対象に「研究成果の社会実装に向けたお金の話 ―出口戦略と学内支援の上手な使い方―」を開催しました。

社会実装の手段としての共同研究や技術移転、事業化等について、成長戦略本部が提供する知財関連支援やスタートアップ支援プログラムを交え紹介。続くパネルディスカッションでは、世界初の歯の再生治療薬を研究開発する京大発スタートアップのトレジェムバイオフィーマ 代表取締役の喜早ほのか氏、京都大学「医学領域」産学連携推進機構(KUMBL) 鈴木忍 特定教授、エコシステム構築領域の畠山航が登壇し、実際の事例による経験をシェアしました。

喜早先生は、ギャップファンドを活用し医学研究から事業化への「死の谷」を越え資金調達に成功した経験や、サイエンスとビジネスで求められるプレゼンの違いなどについて語りました。

ネットワーキングでは活発な意見交換が交わされ、参加者からは「参考になった」という声が多く寄せられました。



パネルディスカッション



ネットワーキング

エコシステム構築領域

Pickup ECC-iCAPのアルムナイイベントを開催しました

京都大学の100%出資子会社である京都大学イノベーションキャピタル株式会社(京都iCAP)は、成長戦略本部の委託事業として、起業をめざすビジネスパーソン向けに「ECC-iCAP (Entrepreneur Candidate Club)」を展開しています。研究者とビジネスパーソンが出会うコミュニティとして、京都大学の研究シーズの事業化に向けたアクティビティを提供しており、2024年度までに23社の京大発スタートアップ企業が誕生しています。

今回、ECC-iCAP初となるアルムナイ(同窓会)イベントを、2025年1月25日、京都府庁旧本館旧議場にて開催しました。先輩起業家と起業をめざす経営人材が合わせて20人以上参加し、パネルディスカッションや現役メンバーによる進捗報告およびフィードバックが行われました。現役メンバーが卒業生から助言を受ける場面もあるなど、参加者は同じ志を持った仲間との交流によりモチベーションアップの良い機会となりました。



ソーシャルリレーションズ領域

Pickup 京都大学基金「感謝の集い」を開催しました

京都大学基金へご寄付をいただいた皆様に、総長をはじめ教職員から謝意をお伝えする場として、感謝の集いを開催しました。今回は京都(2024年11月27日)と東京(2025年1月16日)にて開催し、それぞれ約40人に参加いただき、京都大学基金の現状や活用事例を報告しました。

京都では寄付による支援を受ける研究者と学生が研究発表を、東京国立博物館 平成館を会場とした東京では、稲垣恭子理事・副学長と同博物館学芸研究部長の河野一隆さんによる対談や総合文化展の鑑賞、レセプションパーティーなどを行いました。

本学の現状や展望などを支援いただいている皆さまに直接お伝えすることができ、貴重な会となりました。

Pickup 第19回京都大学ホームカミングデイ2024を開催しました

2024年11月2日、あいにく朝から激しい雨が降る荒れ模様となりましたが、講演会や音楽会には多くの方にお越しいただき、附属農場・牧場のお米や果物、食肉類、本学ゆかりの企業の商品を販売するブースやキッチンカーなど15店舗に出店いただいた「くすのき逸品マルシェ」は賑わいを見せていました。

講演会の講師を務めていただいたヤマハ株式会社の剣持秀紀さん(1993年工学研究科修了)は、歌詞とメロディーを入力してコンピュータなどで歌唱をつくり出す「VOCALOID」の開発者。その開発秘話や音楽を取り巻く環境や楽器の変化、そして音楽そのものの変化について、デモンストレーションも交えながら語っていただきました。

音楽会は京都大学交響楽団の木管・金管・弦楽器のアンサンブル、京都大学グリークラブと京大合唱団同窓会による合唱が行われました。

このほかスタンプラリー、京都大学の研究者との「対話」を楽しむ京都大学アカデミックデイ、総合博物館や尊攘堂などの施設見学、清風荘公開なども多くの方に参加いただきました。

記念すべき第20回となるホームカミングデイ2025は、11月1日(土)に開催が決定しました。節目となる今回は例年のイベント内容に加えて、特別なイベントを企画しています。企画内容は順次お知らせしていきます。



ANNOUNCEMENT | お知らせ

クロックタワーコンサートを開催します

「クロックタワーコンサート ～京都大学と京都市立芸術大学による交流の午後～」は2005年に「京都大学と京都市立芸術大学との大学間交流に関する覚書」を締結したことから、同年に始まりました。

毎年5月頃に開催されており、京都大学百周年時計台記念館百周年記念ホールの美しい新緑を背景に、京都市立芸術大学交響楽団による若々しく、繊細な演奏をお届けします。演奏だけではなく、講師による曲の解説が行われるところも、本イベントの醍醐味です。京都大学では珍しい音楽に特化したイベントを、ぜひお楽しみください。



▶クロックタワーコンサート

<https://u.kyoto-u.jp/sqkcm>



BIO International Convention2025に出展します

BIO International Conventionは毎年アメリカ・ボストンで開催される、バイオ分野における世界最大規模のパートナーリングイベントです。2025年は6月16～19日に開催されます。

京都大学は初出展だった昨年に続き今年も出展し、本学研究者のシーズ紹介などを行う予定です。出展内容については決まり次第、お知らせします。